

## エジプト産オレンジが過小評価されたのは過去の話

[FreshPlaza 2025年9月10日](#)

サマアグロ社の輸出マネージャーであるモハメド・カミス氏は、「市場でエジプト産オレンジが過小評価され、軽んじられていた時代は既に終わった。現在は評価と公正な価格の時代である」と語る。(以下「」は同氏の話)

カミス氏によれば、これはエジプトの生産量の減少、紅海の物流状況の改善、及びエジプト国内におけるオレンジ加工場の台頭によるものである。

「エジプト産オレンジは長らく、過剰な供給のために欧州市場で軽んじられてきた。その品質にもかかわらず、安物として悪評が立っていた。スペイン、米国、チリ、アルゼンチン、及びその他多くの産地からの供給に加え、買い手を探すエジプト産柑橘類が多すぎたことは否めない。」

この状況は過去2カ年で変化し始めており、当初は気候要因によるものであった。

「スペインとエジプトの両国で生産量が減少し、それがエジプト産オレンジの価値の向上に寄与した。紅海の危機により、アジア市場へのエジプト産オレンジの入荷量が減少し、欧州市場へと振り向けられたためこの均衡が崩れた。」

「同時に、中国は東アジアの複数の市場においてシェアを回復した。これは好材料であり、これらの市場におけるエジプト産オレンジの評価の向上に貢献した。紅海の物流状況が徐々に改善し、これらのオレンジが不足する市場での需要が依然として強い中、我々は力強い復帰を果たしている。」

大きな驚きは前シーズンに訪れ、オレンジ果汁の濃縮工場が突然出現した。

「これらの工場が設置され、高い生産水準に達するまでの速さは、エジプト自身を含めて誰もが驚いた。この新たな参加者は前シーズンの生産量の約3分の1を吸収し、次のシーズンには半分を吸収すると見込まれている。間もなく十数カ所の新工場が加わり、原料オレンジの総消費量は100万トンを超えると見られる」。

様々な情報筋によると、工場がフル稼働に達した際には、加工用オレンジの消費量は年間200万トンに達すると予測される。

「我々はこの状況を前向きに捉えている。概して言えば、エジプト産食用オレンジの輸出量は来シーズンから半減し始めると予想している。紅海の状況がほぼ正常化したことで、これは欧州及び東アジアの各市場への輸出が均衡することを意味する。これにより取引の健全性が向上するため、仮に来シーズンの生産量が増加しても、エジプト産品は市場でより高く評価されるだろう。」

執筆者: ユーネス・ベンセド

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)